

# 今月の視点

## EXPO 2025 大阪・関西万博

理事 國近 尚美

ついに開幕した大阪・関西万博は、大阪市此花区の人工島「夢洲（ゆめしま）」において、2025年4月13日～10月13日の184日間開催される。「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに掲げ、世界各国の158か国と地域、9つの国際機関が参加する国際博覧会である。2005年に開催された「愛・地球博」に続き、20年ぶりに日本で開催される国際博覧会であり、1970年に大阪で開催された万博以来、55年ぶりの日本での登録博覧会となる。

### ①開催までの経緯

2014年に大阪・関西万博の構想が浮上し、誘致活動が本格化した。その後、国際博覧会事務局（BIE）による審査を経て、2018年に正式に開催が決定した。

### ②万博の内容

- ・開催期間：2025年4月13日～10月13日（184日間）
- ・会場：大阪市此花区の人工島「夢洲（ゆめしま）」
- ・参加国・地域：158か国・地域、9つの国際機関が参加
- ・コンセプト：「People's Living Lab（未来社会の実験場）」として、最先端技術や社会システムの実証・共有を目的とする
- ・テーマ：「いのち輝く未来社会のデザイン」
- ・サブテーマ：
  - \*いのちを救う（医療・衛生・災害対応など）
  - \*いのちに力を与える（教育・福祉・ダイバーシティなど）
  - \*いのちをつなぐ（環境保全・文化交流・持続可能な開発など）

この万博は、従来の「見る万博」から「参加する万博」へと進化し、来場者が未来社会のあり方を体験しながら考える場となることを目指している。

### ③公式キャラクター「ミyakumiyaku」について

ミyakumiyakuは大阪・関西万博の公式キャラクターとして、非常にユニークで記憶に残る存在である。その名前には「脈々と流れる命やエネルギー」「文化のつながり」という深い意味が込められている。

ビジュアル的には、さまざまな色が使われた有機的な形状で構成されており、伝統的な日本らしい色彩と未来的なデザインが融合している。大阪万博は「いのち輝く未来社会のデザイン」がテーマであるため、ミyakumiyakuもそのテーマを体現していると言われている。

### ④1970年大阪万博との比較

1970年の大阪万博と2025年の大阪・関西万博には、時代背景やテーマ、展示内容などにさまざまな違いがある。

#### 1. 時代背景

- ・1970年：高度経済成長期の日本で開催され、「人類の進歩と調和」をテーマに、技術革新や経済発展を象徴するイベントであった。
- ・2025年：成熟した社会の中で、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、持続可能性や社会課題の解決を重視した万博を目指している。

#### 2. 入場者数

- ・1970年：約6,422万人が来場し、当時の日本人口の半数以上が訪れた計算となる。
- ・2025年：約2,800万人の来場を見込んでいる。1970年と比べると半減以下の予測。

### 3. 展示テーマ

- ・1970年：「人類の進歩と調和」を掲げ、科学技術の発展や宇宙開発などが中心であった。アメリカ館では「月の石」が展示され、ソ連館では宇宙技術が紹介された。
- ・2025年：「いのち輝く未来社会のデザイン」を掲げ、医療・福祉・環境問題など、持続可能な社会の実現に向けた展示が中心となる。

### 4. 会場と建築

- ・1970年：大阪府吹田市の千里丘陵に設置され、岡本太郎の「太陽の塔」が象徴的な存在であった。太陽の塔は現在も保存されている。
- ・2025年：大阪市此花区の人工島「夢洲（ゆめしま）」に設置され、デジタル技術を活用した未来型の展示が特徴。

### 5. 万博の目的

- ・1970年：技術革新と経済発展を世界に示す場として機能し、日本の国際的な地位向上に貢献。
- ・2025年：持続可能な社会の実現に向けた実験場として機能し、社会課題の解決を目指す。

以上のように、1970年の万博は「技術と経済の発展」を前面に押し出したのに対し、2025年の万博は「持続可能な社会の構築」に重点を置いている点が大きな違いである。

### ⑤現状と開催期間における今後の課題

#### 成功している点

1. 来場者数の増加：開幕後、ゴールデンウィーク期間中に多くの来場者を集め、特にピーク時には混雑が見られるほどの人気を博している。
2. コンテンツの評価：大屋根リングの壮大さや海上の噴水ショー、各国のパビリオン展示が高評価を受けており、訪れた人々の満足度が高い。
3. 経済効果の拡大：予想以上の経済波及効果が見込まれ、地域活性化やインバウンド誘致にも成功している。

大阪・関西万博は、各国のパビリオンが個性豊かな展示を行い、多くの来場者から評価を受けている。

#### 高評価を受けているパビリオン

- ・アメリカ館：「月の石」の展示やNASAの宇宙開発体験が人気で、連日長蛇の列ができています。

- ・サウジアラビア館：未来都市「NEOM」の紹介や文化体験が充実しており、スケールの大きさが話題。
- ・イタリア館：ダ・ヴィンチやカラヴァッジョの名画展示に加え、本格的なイタリア料理が楽しめる点が評価されている。
- ・フランス館：ルイ・ヴィトンやディオールなどの展示があり、ファッション好きに人気である。

#### 今後の課題

1. 運営面の改善：入場ゲートやパビリオンの混雑対応、雨や暑さ対策が引き続き求められている。
2. チケット販売の推移：目標来場者数達成には、会期終盤まで販売が好調に続く必要がある。
3. 国際協調の場としての活用：世界各国との協力を深め、万博を通じた国際的な交流をさらに促進することが重要。

全体的には好評を得ているが、運営面の改善や来場者数の維持が今後の課題である。

万博は各国の文化や技術を体験できる貴重な機会となっており、今後もさらなる盛り上がりが見込まれている。

### ⑥経済への影響

#### 経済効果

- ・総経済波及効果：万博による経済効果は約2兆9,182億円に達すると試算されている。
- ・雇用創出：建設業や観光業を中心に、多くの雇用が生まれ、地域経済の活性化につながる。
- ・インフラ整備：大阪メトロ中央線の延伸や関西空港の拡張など、交通インフラの改善が進められた。

#### 企業への影響

- ・新技術の発表：各国の企業が最新技術を展示し、ビジネスチャンスを広げる場となっている。
- ・観光業の活性化：訪日外国人観光客の増加により、ホテル・飲食業界が恩恵を受けている。
- ・地域経済の波及：関西圏だけでなく、日本全国の観光地にも経済効果が波及すると期待されている。

万博は単なるイベントではなく、日本経済の成長を促す重要な機会となっている。今後、企業や自治体がどのようにこの機会を活用するかが鍵となると思われる。

## ⑦医療分野への影響

医療分野にも大きな影響を与えている。「大阪ヘルスケアパビリオン」は、最先端の医療技術やライフサイエンス産業を紹介する場として注目されている。iPS細胞の展示などが未来への期待を高めており、開幕から約2か月で来館者数が100万人を突破している。

また、万博では医療救護体制も強化されており、会場内に8か所の医療救護施設が設置され、AEDの普及促進にも貢献している。さらに、感染症対策として「大阪・関西万博感染症情報解析センター」が設置され、来場者の健康管理や感染症の兆候を探知する体制が整えられている。

### 医療技術の発展

- 再生医療の推進：iPS細胞を活用した心筋再生医療が紹介され、心不全治療の新たな選択肢として期待されている。
- 医療機器の展示：日本の先進的な医療機器や医薬品が展示され、国際的な医療技術の発展に貢献している。
- バイオ3Dプリンターの活用：人工血管の製造技術など、再生医療の実用化に向けた研究成果が発信されている。

### 公衆衛生と医療救護

- 医療救護体制の強化：会場内に診療所3か所、応急手当所5か所が設置され、来場者の健康管理が徹底されている。
- 感染症対策：万博専用の感染症情報解析センターが設置され、来場者の健康管理や感染症の兆候を探知する体制が整えられている。

万博は医療技術の発展や公衆衛生の向上に寄与し、未来の医療のあり方を示す場となっている。今後の医療分野での革新が期待される。

## ⑧万博会期終了後の会場の活用

大阪・関西万博の会場である夢洲は、会期終了後もさまざまな形で活用される予定である。現在、以下のような計画が進められている。

### 1. 大屋根リングの再利用

万博の象徴的な建築である「大屋根リング」は、閉幕後もリユースされる方針が示されている。民間事業者や公的団体からの提案を募集し、持続可

能な資源利用の観点から活用方法が検討されている。

### 2. 夢洲の都市開発

万博終了後、夢洲は大阪の新たな都市開発エリアとして活用される予定である。

- IR（統合型リゾート）：カジノを含む大型リゾート施設の開発が予定されており、観光業の活性化が期待されている。
- 国際ビジネス拠点：企業誘致を進め、国際的なビジネスハブとしての機能を持たせる計画がある。

### 3. 建築物のリユース

万博で使用された建築物の一部は、解体後に別の場所で再利用される取組みが進められている。例えば、「ウーマンズパビリオン」は、ドバイ万博で使用された建材を大阪に移築して活用しており、今後もこうしたリユースの試みが続くと考えられる。

万博のレガシーを活かしながら、持続可能な都市開発が進められることが期待されている。

## ⑨山口県の万博催事

- 開催期間：2025年6月10日～6月13日（4日間）
- 会場：EXPOメッセ（屋内展示場）
- 展示内容：
  - \*物産ブース：日本酒、瓦そば、ういろうなどの特産品販売。
  - \*飲食ブース：「しそわかめむすび」「チキンチキンごぼう」などの郷土料理提供。
  - \*文化体験：伝統工芸「大内塗」の絵付け体験や足湯コーナー。
  - \*ステージイベント：村重杏奈さんのトークショーや、萩市出身の歌手きただにひろさんのミニコンサート。

### 万博を通じた山口県のPR

山口県は、万博を活用して国内外の来場者に地域の魅力を伝えることを目指している。特に、観光資源のPRや地域産業の振興に力を入れており、万博終了後も持続的な経済効果が期待されている。万博を通じて、山口県の魅力がさらに広がることを祈念している。